

「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」 中間評価結果

大学名	早稲田大学
-----	-------

(総括評価) A	これまでの取組状況を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	<p>『早稲田から「WASEDA」』をスローガンに、大学のグローバル化を最優先課題として人類社会に貢献できる人材の育成を目指し、本事業を中核に全学的に取り組んでいることは高く評価できる。</p> <p>英語による学位プログラム、特に学部教育において従来の国際教養学部に加えて、政治経済学部、社会科学部、基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部に本事業の計画通り英語コースを開設し、既に学生の受入を実施している。また、英語による学位プログラムに入学した学生に対しても日本語教育の重要性を認識し、対応を図っていることは評価できる。</p> <p>平成32年度の目標値として留学生受入れ8,000人を掲げ、計画よりも早く現時点で4,000人余りを受入れている。また日本人学生のグローバル化を目指して、海外留学を積極的に推進している。また、外国人教員の採用数も目標値を上回る実績があがっている。</p> <p>国際アドミッションオフィス、国際コミュニケーションセンター、ライティングセンターなど留学生受入れ体制、日本人学生を含めた多文化共生の取組みなどの基盤整備が計画通り進められている。特に、国際アドミッションオフィスを中心に、渡日前入学許可の拡大、海外指定校制度の導入、海外学生リクルート活動などの取組みは一定の評価ができる。</p> <p>今後、英語による国際コースには、アジアの特定地域からの学生に偏在することなく、欧米を含め広く世界の国々から学生を集め、真のグローバルキャンパスの構築を目指すより一層の努力が望まれる。特に国際コースに日本人学生を含める努力、通常科目の英語化の拡大の努力が望まれる。</p> <p>欧米での本事業の認知度が低く、海外大学共同利用設備であるボン事務所をより積極的な広報活動、リクルート活動の拠点として展開することが望まれる。</p> <p>第三者評価を実施し、より客観的な評価、アドバイスを受けることが望ましい。</p>